

ニュースリリース

2010年8月5日

メルク株式会社
メルクセローノ株式会社

Merck KGaA、2010年第2四半期の決算を発表 税引き後利益は前年同期比70%増加と大幅に伸び、1億8,700万ユーロを計上

- 総売上高は前年同期比16%増加し、過去最高の22億ユーロを達成
- Rebif[®]の売上高は前年同期比4%増加し、4億200万ユーロを達成
- Erbitux[®]の売上高は前年同期比23%増加し、過去最高の2億1,000万ユーロを達成
- 液晶事業の売上高は前年同期比50%増加と大幅に伸び、過去最高の2億8,400万ユーロを達成
- ミリポアを含むメルクグループの2010年ガイダンスでは、営業利益は前年比90%増加の見込み

メルク株式会社(本社東京、会長兼社長カール・レーザー)およびメルクセローノ株式会社(本社東京、社長マーク・スミス)の親会社であるMerck KGaA(ドイツダルムシュタット市、会長カール・ルドルフ・ウィッグ・クライ)は、7月29日に2010年第2四半期の決算を発表しました。

主要決算数値

メルクグループ(100万ユーロ)	2010.2Q	2009.2Q	増減(%)	2010.1-6	2009.1-6	増減(%)
総売上高	2,208.0	1,909.7	+15.6	4,306.9	3,768.2	+14.3
営業利益	326.2	184.5	+76.8	621.0	382.6	+62.3
特別損益	-1.2	--	--	-1.2	-68.8	-98.3
EBIT	325.0	184.5	+76.2	619.8	313.8	+97.5
税引き後利益	186.9	109.9	+70.1	381.5	170.1	+124.3
純利益*	183.4	108.5	+69.1	374.8	165.1	+127.0
一株あたり利益(ユーロ)	0.84	0.50	+69.1	1.72	0.76	+127.0
一株あたりコア利益**(ユーロ)	1.44	1.10	+31.1	2.88	2.24	+28.6

* 非支配持分調整後純利益

**メルクセローノ事業に関する無形資産の償却分、および関連する税の影響を除外した一株あたり利益

Merck KGaA 会長のカール・ルドルフ・ウィッグ・クライは、「第2四半期は総売上高が20億ユーロをゆうに超え良好でした。これは第1四半期の卓越した業績が、確固たるものとして本年をとおして持続することを示しています。この状況を鑑み2010年のグループガイダンスを再度引き上げ、ミリポアを含めたメルクグループ全体では、総売上高は前年比21%増加、営業利益は前年比90%増加を見込んでいます」と述べました。

2010年第2四半期はメルクグループの全4事業部が売上増となりました。特に化学品事業部門が顕著に伸び、グループの総売上高は過去最高の22億800万ユーロとなり、前年同期の19億1,000万ユーロ

ニュースリリース

に比べて 16%増加しました。2010 年上半期の総売上高は、前年同期比 14%増の 43 億 700 万ユーロとなりました。

第 2 四半期の研究開発費は微減し、3 億 3,900 万ユーロとなりました。このうち 87%はメルクセローノ事業部の後期臨床試験によるものです。上半期の研究開発費は 5%増加し、6 億 8,600 万ユーロとなりました。メルクグループの第 2 四半期の営業利益は 3 億 2,600 万ユーロとなり、前年同期の 1 億 8,400 万ユーロに比べて 77%増加と大幅に伸びました。上半期では前年同期比 62%増の 6 億 2,100 万ユーロとなりました。セローノ統合に関する無形資産の償却分を除外した場合のコア営業利益は 4 億 6,900 万ユーロとなり、前年同期に比べて 42%増加しました。第 2 四半期の売上高営業利益率(ROS)は、前年同期の 9.7%から 14.8%に増加しました。第 2 四半期税引き後利益は 1 億 8,700 万ユーロとなり、前年同期の 1 億 1,000 万ユーロに比べて 70%増加しました。上半期の税引き後利益は 3 億 8,100 万ユーロとなり、前年同期の 1 億 7,000 万ユーロから 2 倍以上増加しました。

医薬品事業の実績概要

医薬品事業部門の 2010 年第 2 四半期の売上高は、前年同期比 9.9%増の 15 億 6,400 万ユーロとなり、上半期では前年同期比 8.2%増の 30 億 7,900 万ユーロとなりました。医薬品事業部門は、コーポレートおよびその他を除く第 2 四半期グループ総売上高の 71%、営業利益の 49%を占めます。第 2 四半期の営業利益は前年同期比 17%増の 1 億 5,800 万ユーロとなり、上半期の営業利益は 6.0%増の 3 億 3,800 万ユーロとなりました。

メルクセローノ事業部の 2010 年第 2 四半期の総売上高は 14 億 5,100 万ユーロとなり、前年同期の 13 億 1,900 万ユーロから 10.0%増加しました。売上高の伸びは主に、主力製品であるバイオ製剤の Rebif[®] と Erbitux[®] が好調だったことによります。地域別では中国、日本、および中南米で大きな売上増となりました。この売上増には為替のプラスの影響による 3.6%が反映されています。上半期の売上高は前年同期比 8.5%増の 28 億 5,700 万ユーロに達しました。

再発型多発性硬化症の治療薬 **Rebif** の売り上げは、第 2 四半期は前年同期比 4.0%増の 4 億 200 万ユーロとなり、第 1 四半期に計上した 4 億 2,900 万ユーロをわずかに下回りました。これは 3 月に米国の卸売業者から受注した Rebif などの供給が通常の数量を 20 日分上回ったことによります。メルク米国法人 (EMD セローノ) は 4 月に新コンピュータ・システムを導入し、その間、出荷を停止しました。

分子標的抗がん剤 **Erbitux** の売り上げは引き続き拡大しました。第 1 四半期に前年同期比 19%増の 1 億 9,200 万ユーロとなったことに続き、第 2 四半期には前年同期比 23%増となり、過去最高の 2 億 1,000 万ユーロを計上しました。不妊治療薬の遺伝子組換えヒト卵胞刺激ホルモン製剤 **Gonal-f[®]** の売り上げは、第 2 四半期は 6.9%増の 1 億 2,200 万ユーロ、遺伝子組換え分泌型ヒト成長ホルモン製剤 **Saizen[®]** は 21%増の 5,800 万ユーロでした。プライマリーケア製品である **Concor[®]** の第 2 四半期の売上は 3.2%減の 1 億 800 万ユーロ、**Glucophage[®]** 製品は 3.9%増の 8,100 万ユーロ、また **Euthyrox[®]** をはじめとする **甲状腺製剤** は 21%増の 4,700 万ユーロでした。

ニュースリリース

メルクセローノ事業部の第2四半期の研究開発費は2億9,600万ユーロとなり、前年同期の3億200万ユーロに比べて2.0%減少しました。上半期の研究開発費は4.6%増の6億100万ユーロでした。同事業部の研究開発費は引き続き売上高の20%をわずかに上回っています。

米国食品医薬品局(FDA)は7月末、再発型多発性硬化症の治療薬としてクラドリビン錠の新薬申請(NDA)を受理しました。この申請で、審査期間を標準的な10カ月から最短で6カ月に短縮する優先審査の指定も受けました。7月初旬にはロシアで、再発・緩解型多発性硬化症の治療薬として商品名をMovectro[®]とするクラドリビン錠の発売が承認されました。これは多発性硬化症の経口治療薬に対する世界初の承認です。

2007年のセローノ統合に関して今年第2四半期に計上した無形資産の償却費用は、前年同期と同じ1億4,300万ユーロでした。マーケティングと販売の経費は増大しましたが、メルクセローノの第2四半期の営業利益は31%増の1億6,400万ユーロとなりました。2010年上半期の営業利益は14%増の3億4,200万ユーロでした。

メルクセローノの第2四半期の売上高営業利益率は、前年同期の9.5%に対し11.3%で、セローノ関連の無形資産の償却費を除いたコア売上高営業利益率は、前年同期の20.6%に対し21.1%でした。

化学品事業の実績概要

化学品事業部門の2010年第2四半期の売上高は、前年同期比32%増の6億4,400万ユーロとなりました。また、上半期では前年同期比33%増の12億2,800万ユーロとなりました。第2四半期の営業利益は前年同期の7,000万ユーロより2倍以上増加し、1億6,600万ユーロとなりました。上半期の営業利益は極めて低調だった前年同期の1億700万ユーロより3倍以上増加し、3億3,300万ユーロとなりました。化学品事業部門は、コーポレートおよびその他を除く第2四半期グループ総売上高の29%、営業利益の51%を占めます。

液晶事業部の第2四半期の売上高は引き続き伸びており、過去最高の2億8,400万ユーロとなり、前年同期の1億8,900万ユーロに比べて50%大幅に増加しました。上半期の売上高は前年同期比63%増の5億2,300万ユーロとなりました。売上増のうち13%は為替のプラスの影響により、37%はメルクの高品位液晶材料への需要増によるものです。一例として、PS-VA(Polymer Stabilized Vertical Alignment)製品用の液晶材料が挙げられます。この材料はLEDバックライトを搭載する新型液晶テレビのメーカーから要望される動画の高画質化、応答速度の高速化、コントラストと輝度の改善、低消費電力化などに応えるものです。同事業部の第2四半期の営業利益は1億5,100万ユーロとなり、極めて低調だった前年同期の5,200万ユーロから約3倍増加しました。上半期の営業利益は2億6,300万ユーロとなり、前年同期の6,400万ユーロから4倍に拡大しました。

ニュースリリース

パフォーマンス&ライフサイエンス化学品事業部の第2四半期の売上高は、前年同期比21%増の3億6,000万ユーロとなりました。この売上増には本業の伸びが12%、加えて為替のプラスの影響が7.4%ありました。上半期の売上高は前年同期比17%増の7億500万ユーロとなりました。同事業部の第2四半期営業利益は4,700万ユーロとなり、前年同期の1,800万ユーロから2倍以上増加しました。上半期の営業利益は1億200万ユーロとなり、前年同期の4,200万ユーロから2倍以上拡大しました。

本報道資料は2010年7月29(現地時間)にMerck KGaAが発表したものの翻訳です。原文は下記URLより本社ニュースリリースをご参照ください。http://www.merck.de/en/media/news_releases/news_releases.html

本件に関するお問い合わせは下記まで

化学品事業: メルク株式会社人事本部 広報グループ 西上 (電話: 03-5434-4711)

医薬品事業: メルクセロノ株式会社 コーポレート・コミュニケーションズ タベ、小森 (電話: 03-5424-8736)

メルクについて

メルクはドイツのダルムシュタットに本社を置く、世界的な総合医化学メーカーで、2009年総売上高は約77億ユーロです。会社としての起源は1668年まで遡り、現在世界64カ国で事業を展開しており、グループ従業員総数は約40,000人(メルクミリポア事業部を含む)。メルクは起業家精神にあふれる従業員のイノベーションによって成功を収めました。グループの事業活動はMerck KGaAのもとで行われています。全株式の30%が市場で取り引きされており、残りの70%はメルクファミリーが合資会社を通じて保有しています。1917年、当時の米国子会社Merck & Co.の資産が接収された後、同社はメルクからは完全に独立しています。

メルク株式会社はメルクの日本法人として1968年に設立、液晶や顔料などの化学品や試薬・分析薬などを手がけています。メルク株式会社についての詳細は、www.merck.co.jpをご覧ください。

メルクセロノ株式会社は、メルクの医療用医薬品部門とスイスSerono(セロノ)が2007年1月に統合され、メルクの医療用医薬品部門として新しく設立されたMerck Serono(メルクセロノ)事業部(本社:スイス、ジュネーブ)の日本法人です。日本市場においては、同年10月1日より事業を開始しました。メルクセロノについての詳細はwww.merckserono.netをご覧ください。